



## 環境報告書2015について

鉄道・運輸機構では、環境保全に対する基本姿勢や環境分野に係る取組みについて多くの方々にご理解をいただくため、平成17年度から、環境配慮促進法<sup>※</sup>に基づく環境報告書を公表しております。

※法律名称：環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律

このたび、平成26年度における当機構の環境負荷の状況、環境配慮の取組み状況や環境行動計画等を盛り込んだ「環境報告書2015」を作成しましたので、お知らせします。

なお、概要につきましては、次頁以下の「環境報告書2015（概要）」をご覧くださいとともに、本文につきましては、

<http://www.jrta.go.jp/01Organization/Csr/csr-kankyo.html>

をご覧ください。

### 【 問合せ先 】

鉄道・運輸機構

企画調査部企画課 飯見、田村、村越

電話 045-222-9030



# 環境報告書 2015 (概要)

## 特集：「北陸新幹線（長野・金沢間）の開業」(P6～9)

平成 27 年 3 月 14 日に開業した北陸新幹線（長野・金沢間）における開業効果、当該区間の建設において実施した環境に配慮した取組みを紹介

### ○開業効果

東京・金沢間所要時間

|              | 所要時間   | 乗換回数 | 備考           |
|--------------|--|------|--------------|
| 鉄道(長野・金沢開業前) |  3時間47分 | 1回   | 上越新幹線 越後湯沢経由 |
| 鉄道(長野・金沢開業後) |  2時間28分 | 0回   |              |



白山総合車両所

### ○環境に配慮した取組み

- ・白山総合車両所 ～建設廃棄物対策～

北陸新幹線白山総合車両所の基盤となる盛土材料（約 70 万 m<sup>3</sup>）については、新幹線事業で発生した建設発生土や他の機関の事業で発生した建設発生土を積極的に受け入れることにより、建設発生土の有効活用に寄与した。



盛土の施工時

- ・木材の循環的利用

北陸新幹線（長野・金沢間）の各駅において、柵内コンコースの天井や壁面、待合室の壁面などの仕上げ材の一部や、ベンチ・レリーフといった箇所において、地元の要望も踏まえた上で、できる限り地場産木材を採用し、CO<sub>2</sub>削減の一助となるよう努めた。



黒部宇奈月温泉駅

## オフィスにおける環境負荷低減の取組み(P10～12)

### <平成 26 年度の実績>

・CO<sub>2</sub>排出量：2,222t-CO<sub>2</sub>（前年度比9.3%減）、電気使用量：約314万kwh（前年度比9.0%減）、ガソリン等使用量：約207kl（前年度比10.4%減）、コピー用紙使用量：約2,963万枚（前年度比5.4%減）、廃棄物排出量：約252トン（前年度比0.8%増）

- ・昼休み時間帯の消灯及びPC電源オフ状況の見回り点検による注意喚起を図るほか、蛍光灯の間引き、複合機等の省エネモード設定などの節電対策を実施。平成 26 年度より本社及び一部の地方機関では、エコタップを導入し、PC 本体及びモニタの待機電力の削減に努めた。
- ・エコドライブの実施や公用車等の更新時にはハイブリッド型等高燃費性能の車両へ転換を図り、自動車燃料使用量の削減に努めた。
- ・機構本社・支社局等各職場に「エコリーダー」を設置して役職員に対して環境意識の浸透を図るとともに、定期的に「環境行動計画推進会議」を開催し、全社体制により「環境行動計画」の実施状況について点検。
- ・廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用の取組みを推進し、総量の抑制・焼却ごみの削減に努めた。
- ・グリーン調達を推進し、物品関係 17 分野 137 品目、公共工事関係 1 分野 12 品目で調達率 100%を達成。

## 業務の着実な実施による環境にやさしい交通体系の整備に係る取組み (P13～21)

### 1) 鉄道建設の推進及び鉄道事業への支援

- ・整備新幹線の建設・都市鉄道利便増進事業等について、工事完成予定時期を踏まえ、着実に事業を推進。

-機構が事業を推進する整備新幹線（北海道・北陸・九州新幹線）が開業し、鉄道、航空機、バス及び自動車から、新幹線に旅客が転移した場合、374,000t-CO<sub>2</sub>/年及び1,490t-NO<sub>x</sub>/年の排出量の削減が期待される。  
-神奈川東部方面線（相鉄・JR 直通線及び相鉄・東急直通線）が開業し、バスや自動車から同路線に旅客が転移した場合、2,194t-CO<sub>2</sub>/年及び19t-NO<sub>x</sub>/年の排出量の削減が期待される。

- ・地球環境にやさしい鉄道の普及を図るため、鉄道ホームドクター及び海外鉄道プロジェクトへの技術協力を実施。

## 2) 鉄道整備への助成

- ・都市鉄道等の新線建設・利便性増進、鉄道貨物輸送力の増強、環境・省力化に資する鉄道の技術開発等への助成を実施。

## 3) 共有船舶の建造促進

- ・船舶の共有建造業務を通じて、二酸化炭素低減化船 15 隻、海洋汚染防止対策船 4 隻が竣工。

平成 26 年度に建造された貨物船 (18 隻) について、貨物車から新たに貨物がシフトした場合、520,000t-CO<sub>2</sub>/年の排出量の削減が期待される。

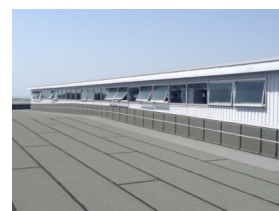
## 4) 共有船舶の技術支援及び高度船舶技術の実用化支援

- ・先進二酸化炭素低減化船について、新たに 1 つの造船所開発船型を認定。
- ・「高度船舶技術実用化助成制度」を通じ、環境負荷低減等に資する高度船舶技術の実用化を支援するとともに、実用化した技術の普及促進に努め、平成 26 年度は当該技術を導入した 12 隻の船舶が竣工。

## 業務の実施に際しての環境への配慮としての取組み (P22~24)

### 1) 地球温暖化対策

- ・トンネル掘削により発生した土砂の搬出にベルトコンベアを使用。
- ・北陸新幹線白山総合車両所において、バランス式逆流防止窓を用いた自然換気システムを採用し、従来に比べ電力の消費の抑制及びランニングコスト低減が可能。
- ・新しい変圧器としてルーフ・デルタ結線変圧器の開発と実用化を実施。従来に比べ、電力損失が少なくなり、環境負荷を低減 (約 10%)。



バランス式逆流防止窓

### 2) 建設廃棄物対策

- ・廃材となったコンクリート塊を破砕して生成される再生砕石が品質基準を満たす場合、工事で積極的に利用。



ルーフ・デルタ結線変圧器

### 3) 工事排水と掘削土の適切な処理

- ・トンネル工事によりトンネル内に流れ込む地下水を河川等へ排水する際、排水基準を満足するよう濁水処理設備で処理を実施。
- ・発生土の他事業等への利用



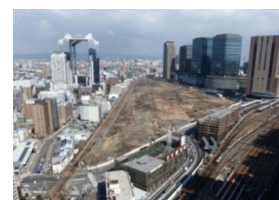
住宅地開発事業で利用

### 4) 生物多様性の保全

- ・工事等が生物多様性にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ調査・予測・評価を行い、必要な環境保全措置を実施。

### 5) PCB 廃棄物の管理及び処理

- ・旧国鉄から承継した PCB 廃棄物について一部処理が完了。残りの PCB 廃棄物については厳重に管理・保管を実施。



梅田駅 (北) 現況

### 6) 土地処分に伴う特定有害物質への対応

- ・旧国鉄から承継した梅田駅 (北) について、土地処分を行うために土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の処理対策工事を実施し、平成 26 年度に終了。

## 環境に関する情報発信と社会貢献活動 (P25~26)

- ・「はまりんフェスタ in 新羽 2014」への参加
- ・国際海事展「SEA JAPAN2014」における展示活動
- ・北海道新幹線、高架橋レールウォーク、地元小学校の社会見学会
- ・「かながわクリーン運動」への協力 など



「はまりんフェスタ in 新羽 2014」への参加